

—第59号—

発行 国際禅道場
鳳儀山聖護寺護持会

責任者 宮本雄一
☎ 0968-25-4791



題字 栢崎一光老師

鳳山八首(其の七)
空林卓錫卜幽栖
冷淡家風實可悲
荷葉滿池無線補
白雲為我坐禪衣
大智禪師偈頌

柔軟心

瑞應寺住職
聖護寺兼務住職

金岡 潔 宗

道元禪師が「正法」を求め中国に渡り、この人こそが「正師」だと確信したのは、天童如浄禪師でした。

『宝慶記』という書物には、その如浄禪師に道元禪師が参師問法した記録が目されています。

その中に、如浄禪師がある時示して曰く「仏祖は常に欲界に在って坐禅辦道す。(中略)世世に諸の功德を修して、心の柔軟なるを得ればなり」と。

道元拝して曰さく。「作麼生か是れ心の柔軟なるを得ん。

如浄禪師示すらく、「佛佛祖の身心脱落を辨肯(仏道に精進すること・事実を分別すること)する、乃ち柔軟心なり。這箇(これら)を喚んで仏祖の心印と作すなり。

仏祖はいつも人々と同じ欲界の中で坐禅をされ真実を求められた。(中略)くり返しくり返しい時代になつたつて、このような坐禅をし、様々な徳を積み重ね、心は柔軟になる。

と、
道元禪師が、では、いったいどの

ようにしたら心の柔らかさというものが、得られるのでしょうか。と問うと

如浄禪師は、『身心脱落』をどういうものか、ということを実際にわかまえるまで修行すること、これがすなわち柔軟心である。と言われたのです。

さらに如浄禪師は、『参禅は身心脱落だ』と言われています。

坐禅をしていることが、身脱落と心脱落であるということです。身脱落とは、体を気にしない。心脱落とは、頭の中で考えていることを気にしない。だから坐禅とは、「体のことも心のことも気にしないで、ただ坐っている」ことなのです。力みやこだわりがなくなる。自由な身心になつたということ。しかし、なかなか難しいからこそ、くり返しくり返し坐るのです。

私たちは、常日頃より肩が凝り、頭が凝り、体が凝り、心が凝っています。

しかし、こんな子供の詩を読むと気づかされます。

うさぎとかめ

志水 佳奈子

おがあさん

うさぎとかめのおはなしで

がめさんはえらいね

いっしょうけんめい やすます あ

るいたね

でも うさぎさんもえらいよ

だつて ちゃんと おひるねしたで

しょ

かなこが おひるねすると

おがあさん すつごく ほめてくれるもんね

皆さんのよくご存じのウサギとカメの話です。ウサギとカメが競争したら、ウサギがカメをあなどつて昼寝をしていてカメに負けた話です。

私は、油断をしていると思わぬ失敗をするから、カメのようにコツコツ努力して頑張りましょう。という教訓が書かれていると教わりました。しかしこの佳奈子ちゃんは、カメさんは一生懸命歩いて「えらい」そして、ウサギさんもお昼寝したから「えらい」と褒めています。この素直な柔軟な心、大人の心では思いもつきません。

さらに、相田みつおさんの詩に

柔軟心 柔らかい心

相田 みつお

そのむかし

道元禪師という方が

宋の国に渡り修行をされて

得てきたものは

ただひとつ 柔軟心 であつたとい

います

柔軟心とは

やわらかいことろのことです

何物にも引つかからない

素直な心のことです

きれいな花を見たらきれいだなあ…と

素直に感ずる心のことです

きゅうりにはきゅうりの良さを認め、

なすにはなすの良さを認める心です

たとえ けんかをした相手のことでも

良いところは良いと認める

大らかな心のことです

そして おかしい時には

腹の底から笑い

泣きたい時には全身で泣く

それが 柔軟心です

心がやわらかいから

素直に笑えるのです

心がやわらかいから

素直に泣けるのです

心がやわらかいのは

心が若いことです

柔軟心を持ちましょう

いつまでも心の若さを保つために…

という詩があります。

私たちは、つい我見がけんによってやわ

らかい心、素直な心を見失つてしま

います。

この聖護寺という聖域で、ただ坐

ることで、体のこと、心のことを気

にしないで、本当の自分を見つめ直

し、素直な心を、子供の時の心を、

そして柔軟心を養い心の若さを保ち

たいものです。

最後にになりましたが、お知らせし

たい事がございます。

これまで聖護寺のお世話をして戴

いた熊本県阿蘇市極楽寺住職林秀峰

老師におかれましては、昨年辞表が

提出され、去る十二月末日を以て辞

任されました。永い間お世話になり、

誠に有難うございました。今後は長

崎県諫早市妙本寺住職吉谷大憲老師

が参禅等の指導等を行って戴く事に

なりました。参禅等に就きましては、

妙本寺 (0957-22-2632)

迄お問い合わせ下さい。

尚、諸々の事に就きましては、

聖護寺護持会長 宮本雄一様

(0968-25-4791)

並びに愛媛県瑞應寺

(0957-41-6563)

迄、お問い合わせ下さい。

参禅会へのお誘い

(緑風爽やか日曜参禅会)

聖護寺護持会役員

藤 本 久 継

今回は新たになった参禅会の様子をご案内致します。

本年一月から参禅会のご指導役が阿蘇極楽寺・林秀峰老師より長崎県諫早妙本寺・吉谷大憲老師がお勤めされる事となり、参禅会の開催が第二日曜から第三日曜に変更となりました。先ず九時半から僧堂で坐禅に必要な事柄を事細かにご指導があり、それから坐禅・経行・坐禅が十一時迄続きます。御承知の如く、坐禅は御開祖・道元禪師様の「只管打坐」がその基



本であり、その意は「唯ひたすらに坐る」事で、そこでは余念・雑念を一切交えない事です。坐禅は悟りを開くものではありません。只静かに坐って「鼻息微かに」整えれば、身も心も整い穏やかに成ると仰っておられます。

その後、本堂脇の部屋に移り法話が始められます。プリントされた教材を基に御老師の此れ迄のご経験が踏まえた御説法は色々胸に響く事が多く、新たな思いが心に沁みて参ります。軽輩乍ら私も、此れからも謙虚な気持ちで新しく学ぶ事で自らを向上させて行きたいと念願して居ります。

去る三月十六日の坐禅会には、本年新たに聖護寺兼務住職と成られた金岡潔宗老師様と行者の楠本剛大師様がご参加頂き、午後からの護持会役員会とのお見知り兼ねた懇談会にも妙本寺様共々にご参加頂き、お互いに胸襟を開いての有意義な時を過ごす事が出来ました事を誠に有難く、感謝申し上げます。今後とも何卒宜しくご指導ご鞭撻の程を衷心よりお願い申しあげます。

合掌

聖護寺回顧

出会いから

今日まで

長崎県妙本寺住職
聖護寺責任役員

吉谷 大憲

幸作福田衣下身

(幸いに福田衣下の身と作りて)

乾坤羸得一閑人

(乾坤羸ち得たり一閑人)

有縁即住無縁去

(縁有れば住し縁無ければ去る)

一任清風送白雲

(清風白雲を送るに一任す)

この偈頌は六八七年前(延元三年、一三三八年)に聖護寺を開創された御開山大智素繼禪師の偈頌(二四〇数首)の中の一首です。

大智禪師は聖護寺山居二十年の後に島原半島加津佐村水月庵に転住された時に詠まれたと言われる困事(事情に因る)の一首で、大智禪師ご自身の往時の禅の深い境地を言いつくされた偈頌と伝えられています。私自身も禅僧の覚悟として絶えず肝に銘じ、常に心に留めている偈です。

扨、私が聖護寺と偉大な大智禪師並びにその妙々たる偈頌との最初の出会いは、今から遡ること五十年前の昭和五十年のことでした。その年の四月に出生地大阪から縁有りて長

崎県諫早市の天祐寺に小僧として入ったのが事の始まりでした。そしてその年の八月一日に師匠の天祐寺住職須田道輝老師より十六条の佛戒を授かり出家得度を受け正式に仏門に入門しました。

その後私の得度を記念して熊本菊池の古刹聖護寺に拝登(恭しく上山参拝)しようと、師匠が思い立たれ、八月三日に師匠と兄弟子と三人で鳳儀山聖護寺へ向かいました。先ず麓の鳳来の里に行き、其処から先は將に深山窮谷で車の離合も容易で無い山道を一、二km上り、漸く辿り着いた境内は一面に禅寂が漂い俗気無き世界が広がっていました。それはまさに道元禪師の偈に有るが如き「世俗の紅塵飛んで到らず」の世界が今尚此処に現成していることを身と心で感じ入りました。

しかし時の流れは止まる事なく、聖護寺九世令峻和尚の代に至って荒廃し廢墟と化しました。しかし時過ぎて大智禪師遺徳の地の痕跡を知るに及んだ村上素道老師が昭和十七年(一九四二年)長崎皓台寺二十九世の座を辞し鳳儀山に入山し、本堂・庫裡を建立し聖護寺復興の礎を築き上げ、中興開山と成られました。その徳を慕い、又枯淡で峻峻な禅を求め各地より沢山の参禅の士が参集しました。

素道老師が御遷化(昭和三十九年・一九六四年)後はその嗣(後継

者)、中興二世鈴木素田老師が復興等の事業を継承され、昭和四十年(一九六五年)には大智禪師六百回大遠忌法要を盛會裡に円成されました。また念願だった「大智偈頌訓註」を発刊、本堂大修理・国宝佛足石を謹写し奈良薬師寺より勸請、万国英靈供養の為、宝篋印塔の建立等にご尽力され、惜しむらくは昭和四十八年・一九七三年)に御遷化、世寿五十八歳でした。

その約二年後に私は聖護寺に拝登しましたが、往時は住職不在で大智禪師からの法灯は堂守の寿志子仙女がお一人で、献身的で温かい護持会や鳳来の皆様方、及び十方有縁の沢山方々の外護のお蔭を賜り、護持して居られました。

拝登の折、寿志子仙女から聖護寺や素道老師の逸話を拝聴してから五十年経った今日でも懐かしく思い出されます。

拝登後私は長崎に帰山、一ヶ月後に四国瑞應寺専門僧堂へ安居(修行)に向かいました。瑞應寺は素田老師も昭和四十年に安居された処だったのです。奇遇でした。私は瑞應寺から昭和五十二年三月に大本山永平寺へ修行の場を移しました。四月になつて素田老師と親交のあった檜崎一光老師が聖護寺中興三世に就任なさつたとお聞きし驚くと同時に聖護寺に新たに佛光が輝くのではと思わずにはおれませんでした。

一光老師は就任後には、聖護寺に僧堂(坐禅堂)、及び衆寮(修行僧の住居)の建設等の構想を示され、護持会の協力の下、建設に着手、平成四年(一九九二年)五月に竣工、落慶法要に引き続き、第一回国際安居を開所し、日本はもとより、北米、南米、欧州から二十名以上の参禅の士が集結し盛會裡に円成致しました。それは聖護寺の家風、伝統が世界に羽ばたいて行つた事を表すものです。

その聖護寺及び大智禪師の家風、伝統は本堂前に建っている素道老師御揮毫の石碑に如実に示されています。「吉峯路人鳳山塙」(吉峯の路は鳳山の塙に入る)、吉峯(永平寺)の正伝の仏法(坐禅)は鳳山(鳳儀山)の塙(里)に伝わった、と言うのがおおよその主意です。正伝の仏法を世界に伝えて行くのも聖護寺の、また大智禪師への報恩だと痛感しています。私事ながら昨年十月ペルー慈恩寺、今年六月カナダ千湊寺、来年二月コロンビア大心寺のそれぞれの晋山結制(新任職就任式)で助化師(新任職の補佐)をつとめ聖護寺の風光を伝えたいと思っております。最後になりましたが、此の度瑞應寺の新任職金岡潔宗老師より聖護寺責任役員(寺院の維持運営の役職)の依頼がありお請け致しました。微力ながら努めさせて戴きますので、宜しくお願い致します。 合掌



山便り・里便り

中学生の地域探求学習

in 聖護寺

護持会役員 山本啓三



静かな空間に「ビシッ、ビシッ」と鋭い音が響さわります。坐禅をしている方が警策で肩を叩かれている音です。

二〇二五年三月十三日(木) 菊池市立菊池北中学校第一学年総合学習時間「地域探求学習」で二十九名の中学生が聖護寺に坐禅体験の為に来山されました。

中学生達は林老師から坐禅をする時の心構えを話して頂き、坐布の座り方、足や手の組み方、呼吸の仕方や目の置き方等を教えて頂き約二十分程坐禅を体験していました。

結跏趺坐で足を組むのが難しく、背筋を「ピン」と伸ばせず猫背になって林老師から何度も直されていきました。後日中学校からお礼の手紙と中学生が聖護寺を訪問して感じた事、考えた事等を感想にまとめた文章を送って頂きました。

感想は物珍しさと林老師のお話しが為になったようですが、坐禅では足が痺れて暫く立てないで困った様でした。

林老師から菊池魂について易しく丁寧にお話しして頂きました。又、正月の「正」は「一」度「止」まって振り返る、子供の「子」は「一」つの事を完「了」するという意味で以前は女性の名前に良くつけられていました等とお話されていました。

中学生の感想文で目に付いたのは女子中学生全員の名前に子が付いてなく、タレントさんか女優さんの様な名前ばかりで、私も時代遅れの老人になったのかと少し淋しい気持ちになった、探求学習でした。

負けるが勝ちかも

〆ばちかぶり〆

鳳来地区 山野由紀

どうも、どうも、コラムを書きながら、恥をかいている山の中のばちです。私が言うのも何ですが、ここ最近の世界は激動期に入りましたね。

空気に乗っても、空気を読まない感染症、お口一つで世界を揺るがすトランプさん。しかし、本当に凄いのは、山火事に地震などの災害を起こす自然です。自然には誰もかなわない。どんなにお金を持とうとも、どんなに有名だろうとも、そんなもの自然にとっては、ミジンコの様なちっぽけなもの。どんなにもがいても、自然には勝てない。今年はずいぶんたくさんだめにしました。一つ一つお金になると言うのに残念です。何年もの努力も、春の大雪や暖かい一晩の雨と雷でおじゃんです。

自然には勝てると何度悔んでも、落ちていく体力と重ねていく年齢と、もうこれが限界なのか！と自分に問う毎日でした。しかし私は、どんなに落ち込んでも勝つ事は出来ない。負けを認めると立ち直る事は簡単です。何にしたって出来たしこ！笑って聖護寺に参ります。仏様に手を合わせて、頭を下げたら、心も体も、ひらきなおります。

明日があるさ！笑って暮らして、しゃれこーべな〜んてネ！

ペルー訪問報告

護持会役員 賀 來 宏

南米における最初の日本人移民上陸地はペルーでした。1899年佐倉丸に乗った790名がバナナ農園で働くために上陸した地です。上陸地点にはメモリアルがあり、往時を偲ぶことができました。が、周りは一面砂漠で、人家もほとんどありませんでした。以降、9回の移民船が北の地点へ、北の地点へと移動して上陸し、リマやコロンビアへと至り、あるいはアルゼンチン・ブラジル等へと広がっていきました。

移民最終船は沖繩からのブラジルでした。この間の全移民数を都道府県別に棒グラフで表示したもので、1位は沖縄県約80%。2位は熊本県10%。3位以下全体で10パーセントには、強く関心を抱き、学びを深めました。(リマ市内にある「日本人ペルー移住資料館」にて)。

最初の上陸地点には近い街に、南米最初の仏教寺院が1903年に開創されたのが太平山慈恩寺です。首都リマから高速道路を南に4時間程走った地にあります。当時は日本

人も多く住んでいましたが、第2次世界大戦で排日暴動、日本・ペルー国交断絶、財産没収、北米送還等々あり、120年を超す歳月が流れて、現在は日系ペルー人6世迄を数え、その大部分がリマ市及び近郊に居住しており、慈恩寺近くには日系人は住んでいませんでした。その為、慈恩寺は彼岸・新年等の法要、及び毎月決まった日に集まっており、祭壇奥の部屋は広い位牌置き場となっていて、その多くが、沖縄独特の朱色の位牌が立ち並んでいました。リマ市内に慈恩寺別院が設けられて、日常の坐禅会やお勤めがなされています。

私達は2024年10月24日25日に慈恩寺前任職日系3世大城慈仙尼と



お弟子の新住職大城仙芳老師の住職交代式(晋山式)に参加させていただきました。諫早市法雲山妙本寺住職吉谷大憲老師が西堂助化師(晋山式の総責任者)で、佐世保市洞禪寺住職中村覚道老師・一燈さんと、一緒にさせていただきました。聖護寺とのご縁が深い御三方の御蔭で、私のペルー行きが叶いました。

晋山式では昨年・一昨年に聖護寺に修行にいられた在家の方々やアルゼンチンのご僧侶親子、カナダの幸運老師らにお会いできて再会を喜びました。

その後、リマでは市内でのイベント『吉谷大憲老師の 一期一会 講演会』『別院での座禅会』『日本会館・日本人ペルー移住資料館見学』等に参加し、リマ市内見学ツアー『スペインの征服時に建設された教会・太平洋の海辺での水遊び・観光地見学等々』を聖護寺において下さったペルーの在家の方々がお案内してくださいました。私が阿蘇へ一日案内のおもてなしをした方々もおられました。リマ市は、海拔100メートル以内位の地で気温も、ほぼ日本と同じくらいでした。ペルー名物の焼酎ピスコは43度で、葡萄でできた透明の焼酎でした。ホテルやレストラン

で、出されるピスコは、乳白色の甘い液体で割って出されるので、まるで、カルピスを飲むようで、私達のお気に入りでした。

ペルーでの圧巻はマチュピチュ行きました。3,700メートルのクスコ空港に着き、クスコ市内見学。『インカ帝国遺跡見学』、『博物館見学』『先住民居住地迄のバス旅行・お祭りへの参加・宿泊』。『日本人が作った列車でのマチュピチュ行き』。現地を訪ねた為、知ることができた天空のマチュピチュ建設の謎がわかりました。

聖護寺にお参りしていたからこそ、叶えられたマチュピチュ行きと慈仙尼・仙芳師晋山式参加の喜びを感謝の気持ちでご報告致します。





◀ 聖護寺からの展望

薬師如来立像 ▶



仏足石 ▼



春季法要のご案内

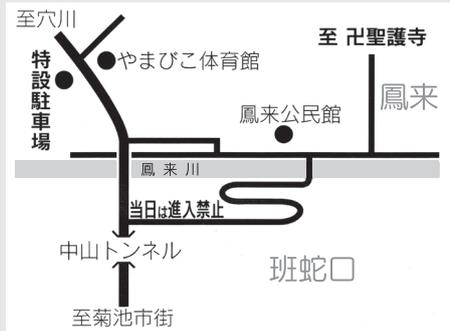
下記により春季法要を行います。ご多用中とは存じますが、皆様お誘い合わせの上、多数のご参詣を賜りますようご案内申し上げます。

記

- 1. 日時 令和7年5月25日(日)
 - 午前9時30分 受付開始
 - 〃 10時 巡拝
 - 〃 11時 法要
 - 〃 11時30分 法話
 - 〃 12時30分 会食

2. 場所 鳳儀山聖護寺

※当日は、午前9時よりタクシー(無料)が「やまびこ体育館特設駐車場」発 → 聖護寺着で往復します。



護持会会員の皆様へ

聖護寺に関する思い出やご要望をお持ちの方、「鳳山」へのご寄稿をお待ちしています。

原稿用紙一〜二枚まで。写真も可です。

聖護寺護持会

お知らせ

聖護寺は梅も桜も躑躅も石楠花もその役目を終え、全山が燃えるような新緑の季節となり、やっと寒さを忘れさせる候となりました。此の度、新しい住職様と参禅会を束ねて戴く老師様をお迎えしました。皆様方の御上山を心待ちにしています。

また奈良薬師寺長藤様の「唯識論」講義も毎月菊池中央図書館(キクロス)でOn lineでおこなっております。

生涯学習センター中央公民館
(菊池市隈府八七二)
電話〇九六八―二五―一六七二
(雄)



シャクナゲ

参禅会
毎月第三日曜日(原則)
変更の時がありますので、前日に問い合わせください。
連絡先 藤本久継
090-4587-0456

菊池唯識講話会
毎月一回(日曜日)
於 生涯学習センター
中央公民館
(菊池市隈府八七二)
連絡先 東 信彰
0968-25-2569

千八六一・一六七
熊本県菊池市班蛇口鳳来二〇三四
鳳儀山 聖護寺
0968-25-4791

千861・1331
熊本県菊池市隈府七七五
宮本内
聖護寺護持会事務局
電話(〇九六八)二五・四七九一